

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610510087		
法人名	医療法人 藤野会		
事業所名	グループホーム成田		
所在地	徳島県美馬市脇町字拝原2573-1		
自己評価作成日	平成29年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接している協力医療機関との医療連携体制が確保されており、緊急時や必要時には受診や往診などの適切な医療が受けられる体制が整っていることが何よりも当事業所の強みである。協力医療機関の担当看護師による利用者の健康管理や介護職員への指導・相談を行っている。協力医療機関の理学療法士より、「生活の中でのリハビリ」の方法について指導を受けられる。法人内での多職種による合同勉強会や合同ミーティング・各委員会を行い、職員の知識・技術の向上を目指す取り組みを実施している。利用者様やご家族の要望・意見をよく聴いて、それを事業所の質・ケアの質の向上につなげる工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲を緑豊かな自然に囲まれた静かな住宅街の中にあり、恵まれた環境に位置している。隣接する同一法人が運営する医療機関と緊急時対応や健康相談、リハビリ指導等の連携体制を整え、利用者や家族の安心へとつなげている。地域の住民と一緒に防災訓練を行うことで、共に支え合う共助の意識を高め合っている。事業所内では、職員の丁寧な見守りや言葉がけにより穏やかな明るい雰囲気を創りだしている。地域の住民と共に見守りを行うことで、施設にたよらない利用者の自由な暮らしを支えている。また、事業所では利用者一人ひとりや家族と密接なつながりを持つための試みとして個別面談を予定している。家族からの意見等を大切にた、より暮らしやすい第二の家となるために努力を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったケアができるように職員間のミーティング等で確認している。理念や心得はいつも目の届くところに掲示している。	事業所では、独自の理念や職員心得を作成している。事業所内の目に付くところに掲示している。ミーティング時に全職員で話し合い、つねに立ち戻る原点であることの意識付けを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1度、地域交流食事会を開催し近隣の方と利用者及びご家族との交流を深めている。	事業所は、日常的に利用者と職員で散歩に出かけている。その際、住民から野菜や果物の差し入れをもらうことがある。また、利用者の歩きを見守ってもらうなど、近所の方との顔馴染みの関係がある。また、家族間の交流や近隣の他事業所の関係者を食事会に招待するなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学の職場体験学習の受け入れや地域交流会及び運営推進会議を通して認知症ケアの理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域の方々、行政、他施設、消防など各分野の皆様にご参加いただき現状報告を行っている。またそれぞれにご意見を頂きケアの向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域住民の代表、他事業所職員、市担当者の出席を得ている。出された意見について職員会議で話し合っって運営面に反映し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市の担当窓口を訪れて現状報告をして、ご意見・ご指導をいただいている。	毎月、職員は市担当窓口を訪問して実績報告書を提出している。その際、困難ケースを相談したり、課題解決に向けて一緒に取り組んでもらえるような関係を築いている。困難事例には、ケアマネジャーや保健師等、関係職種の方からの助言も得ることができ、密に連携を図るよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行っていないが、やむを得ない場合は管理者、ご家族、職員で十分に話し合い必要最小限に済むように努めている。	法人全体で勉強会を行う機会を設け、介護理念がぶれないよう全職員で拘束の具体的な内容の理解や廃止に向けた取り組みについて意思統一を図っている。また、申し送りノートに気づきを記入し、全職員で日々のケアを振り返るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会を実施したり、ケアカンファレンスにおいても不適切なケアがなかったかを確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度の利用者はおいではないが、職員は勉強会を通じて制度についての理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項や事業の取り組みについて丁寧に説明し同意を得ている。不明な点は随時、質問・相談を受けることができることも伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時、面会が少ない方にはお電話にて現状報告を行うとともに意見を聴いている。また、意見箱も設置している。	事業所では、食事会を開催するなどして、日頃から家族等が来訪しやすいようにし、また利用者や家族が意向を表出しやすい雰囲気づくりを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回の個別面談にて職員からの意見・提案を聞き取り、運営に反映できるように努めている。	年2回、管理者と職員の個別面談の機会を設けている。また、管理者は職員アンケートを実施することで、日ごろの業務の中で得た気づきや意向、要望を把握するよう努めている。職員一人ひとりの意見が管理者に届くよう、朝礼時やカンファレンスなどで把握する仕組みを築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人一人の長所と短所を把握しそれぞれに合った業務内容を考慮し、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や法人内での勉強会に参加する機会を確保している。また、資格取得に向けての支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美馬市指定グループホーム合同連携会議を通じて他施設の方々と交流を図り、情報交換をすることで自施設のサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の見学、体験入居等を行い、新たな場所での生活の不安をできるだけ取り除くよう努めている。また、本人、ご家族の要望や生活環境等の聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族の不安や要望を聴き、そのニーズを元に支援方法を検討し実践している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居した利用者とそのご家族にとって何が必要なのかを職員間で話し合い適切な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対して尊敬の念を持ちながら、一方で自分の家族のような親しみのある存在ととらえ共に生活し助け合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を得ながら本人をサポートしており、本人の近況報告も定期的に行うことで共に支え合う関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで利用してきた美容室の利用や地域の老人会への参加等をご家族の協力を得ながら支援している。	事業所では、家族の協力を得た上で、老人会や馴染みの美容院の利用を支援している。また、利用者の教え子や繋がりのある商店の方など、一人ひとりの馴染みの関係に配慮し、事業所への来訪を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流がスムーズにできるように関係性を把握し、利用者間のトラブルを未然に防ぐよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了(退居)してもこれまでの関係を断ち切ることなく相談があれば親身になって対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを積極的にとることで本人の希望や意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方については日常の表情などから見極めるようにしている。	職員は、利用者の自由な暮らしを大切に支援するために丁寧な見守りに努め、日頃の関わりのなかでも、一人ひとりの意向を把握するようにしている。職員は、一人ひとりの思いの把握に関心を払い、表情や些細な仕草の変化からも意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や前施設からの情報を収集しこれまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムや残存機能に合わせた支援ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議(ケアカンファレンス)を月1回行い、利用者を中心として家族の意見も反映させたケア計画の作成に努めている。	事業所では、利用者に寄り添った介護を実践していくなかで感じたことや家族の希望、利用者の思いを関係者間で話し合い、その人らしい暮らしを続けるための介護計画を作成している。3か月に1回、介護計画を見直している。また、月1回、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテ、生活記録、介護記録等の情報を元に職員間で話し合い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを正確にとらえ、それに合わせた柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理容店や商店を利用し、利用者が地域の一員であることを実感できるような環境づくりをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の受診だけでなく本人や家族が希望した時はその他の医療機関を受診できるよう支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族と相談したうえで、歯科往診にも対応している。また、協力医療機関と連携を図り、看護師の訪問体制を築くなどして、利用者や家族の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の担当看護師との連携を密にしており、医療面の対応がスムーズにできる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の医師、担当看護師には日頃から利用者の状況を報告して情報を共有し、入退院時の対応も速やかにできるような連携がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者やターミナルケアについては本人、家族の意向を確認し主治医を含めて共有している。	契約時の段階で、本人や家族に重度化した場合や終末期の支援のあり方に関する説明を行い、同意を得ている。利用者の状況に応じて家族や医師、関係者等で話し合い、対応方針の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時の対応については勉強会や看護師の指導を通じて具体的な方法についてマニュアルを確認しながら備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体及び当事業所での防災訓練に加え、地域の防災訓練にも参加し近隣住民に災害時の協力も依頼している。	年2回、事業所独自の避難訓練を行っている。また、豪雨や水害時に備え、階上に避難する方法についても検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守ることを大切にしながらプライバシーを確保したかかわり方について職員間で話し合い実践している。	職員は、利用者への声かけの際の言葉の内容が、本人の自尊心を傷つけないよう留意している。職員間で、利用者のプライバシーの確保や尊重のあり方に関する勉強会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自身の思いや希望を話しやすい雰囲気づくりに努め、日常生活のあらゆる場面で自己選択・決定ができる機会をつくるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者にとっての快い生活リズムや過ごし方を大切に、職員の業務優先にならないような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日中パジャマで過ごすといったことがないように利用者と一緒に毎日の服を選んだり整容や化粧の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの食材を使用して四季を感じていただいたり、その人の状態や好みに合わせ食べやすいものを用意している。また準備・片付けを手伝ってもらいコミュニケーションも図っている。	事業所では、同一法人の運営する他サービス事業所の管理栄養士や調理師と連携している。利用者と職員で食卓を囲み食事をとっている。利用者一人ひとりの食事形態や体調に配慮した食事形態としている。また、季節に配慮したメニューとなっている。行事やお誕生会には、利用者と職員で食事の準備や調理を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の疾患・栄養状態を把握した上で食事量、水分量を確保し必要であれば代替食にも対応している。水分補給には経口補水液も活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い義歯及び口腔内の状態を確認している。異常がある時は早期に協力歯科医療機関への受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握しそれに合わせてできる限りトイレに誘導することで少しでもおむつ内への排泄が減らせるように取り組んでいる。	職員は、一人ひとりの排泄パターンや利用者の様子を細かく把握し、身体状況に応じたトイレへの誘導を心がけている。また、支援にあたっては、本人の誇りやプライバシーを損なうことがないよう配慮している。また、トイレ環境を整えることで、トイレで気持ち良く排泄することができるようにしてい	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便確認を行い、水分摂取と乳製品や食物繊維の多い食材の活用等により自然排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて快適に入浴できるように支援している。体調により入浴できない場合は清拭・足浴を実施している。	事業所では、利用者の生活習慣や希望に応じて入浴することができるよう支援している。職員は、利用者が安心して入浴することができるよう、一人ひとりの体調などにも配慮し、複数人での介助や声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が起こらないようにできるだけ日中の活動量を増やし自然で良質な睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個別にファイルし確認できるようにしている。服薬時には誤薬防止のために声出し確認等で安全に服薬支援できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、フロアの清掃、カレンダー作り、洗濯物の片付け等その人の力量に応じた役割を持っていただき、活力ある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者やご家族の希望を把握し、体調を見ながら自由に外出できるようにしている。外出頻度の少ない利用者の為に職員と一緒に散歩に行くなど少しでも戸外へ出る機会を設けている。	事業所では、天候の良い日には、利用者と職員で事業所周辺を散歩したり、玄関先にベンチや椅子を出してお茶を楽しんだりしている。重度の利用者には、新鮮な空気に触れる機会を多くもつよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階ユニット「凜」 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望で少額のお金を持ってもらっており、なじみの商店等の利用時にご自身で支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で自由に電話をかけたり手紙を書いたりできるように配慮している。また、携帯電話の所持も可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の照明、空調等に気を配り快適な生活が送れるようにしている。季節が感じられる装飾や草花、行事の写真の掲示など居心地の良い空間づくりをしている。	事業所内には明るい光が差し込んでくる。温度や湿度等にも注意しており、利用者が快適に過ごすことができるよう配慮している。共用空間は、季節感を大切に空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂で新聞を読んだり皆で歌をうたったり、ソファで気の合う同士がテレビを観たり、利用者それぞれが居心地良いと思えるような場所を確保できるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使っていた愛着のあるものを持ち込んでもらい自分の家と感じていただけるように支援している。	利用者が落ち着いて過ごすことができるよう本人や家族の協力を得て、居室に使い慣れた家具や写真を持ち込んでもらっている。居室の環境が本人にとって居心地の良い空間となるよう、むやみに片付けることなく、落ち着いて過ごすことを大切に捉えた暮らしの支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状態に合わせて車椅子、シルバーカー、歩行器等を活用し安全に移動できるようにしている。また危険回避を意識しすぎて過剰な行動制限にならないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や職員心得は、常に職員が目に入るところに掲示しており、ミーティングなどで確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域の理容店を利用したり、利用者によっては、長年行き慣れた美容院に出かけたりして、今までの暮らしが切れることのないように支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所の食事会に地域の方に参加していただき、認知症の方との関わりを持ってもらったり、施設の取り組みや実情を見ていただき、意見をもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政や地域のさまざまな方にご参加いただき、事業所の取り組みや入居者の現状を報告し、意見や問題点を話し合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月状況報告を行っており、その時に現場の実情の報告や相談を行い、意見や指導をもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は除き、フロアの施錠は原則行っていない。職員が見守りし、抑圧感の無いケアを行っている。緊急時、やむを得ない場合は、家族と話し合い決定している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内勉強会を開催し、高齢者虐待防止に努めている。また、ミーティングでも不適切な対応がないか話し合い注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会で権利擁護・成年後見制度や認知症の勉強会を開催している。また、対象者が入居した場合でも安心して生活できるように、体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っているが、入居後も心配事や疑問点などあれば、その都度、面談等の対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、意見箱設置による苦情等の受け付けや面談を随時行っており、利用者や家族の意見や要望を聴き、実現できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談を行っており、面談で職員からの意見や提案などを聴き、職員が働きやすい環境の実現に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日頃から職員の個々の能力を知っており、それぞれの努力や実績などから処遇改善を行っている。また、職員が実力を発揮できるように指導・面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修や介護支援専門員対象の勉強会・保健所主催の感染対策研修会等に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム合同で実施されている連携会議に参加し、それぞれの事業所の取り組みや問題点を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントを実施し、ご本人の表情・行動をよく観察し、第2の家族であるという気持ちで寄り添う支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までにない相談事でも、できるだけ問題を解決できるように、職員間で相談し家族の負担を減らせるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族にとって、今必要な支援は何かをよく話し合い、型に捉われない柔軟なサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に対して人生の先輩として尊敬や敬意の念と第2の家族であるという親しみのある関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、利用者の現状報告を行い、ご家族との話し合いの場を持っている。また、行事にはご家族にも参加して頂き、協力してご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの歯科・眼科や行きつけの美容院などを、ご家族の協力を得ながら利用できるように支援し、関係が切れることのないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や身体状況が違って、運動会や敬老会・クリスマス会など、共に楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約(退居)されたとしても、家族や本人にその後の状態を訪ねたり経過を見守っている。また、退居者やその家族が相談や遊びに来訪するなど友好関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望や思いを聴く機会を積極的に作りじっくりと耳を傾けている。コミュニケーションが困難な方は、日頃の表情や様子から意向をくみ取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や日常の折に触れて、家族にこれまでの生活環境など話を聞いたり、失礼のない様に配慮しながら本人にも話を聞いて把握し、適切な支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の残存機能や生活リズムを観察・把握し 炊事・洗濯・裁縫・書き物など、利用者が気持ちよく力を発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議(ケアカンファレンス)を開催し、そこで出た意見をもとに介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護カルテに日々の気づきを記録し、その記録をもとに、職員間で話し合い利用者のための介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思いを大切に、柔軟な対応ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店や商店を利用して顔馴染みの関係を作り、地域の方々とのつながりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、利用者の状態や希望により、他の医療機関の受診や往診ができるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の担当看護師に、日頃から利用者の情報提供を密に行って相談し、アドバイスをもらって、医療面でのサポートを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に利用者の情報提供を行っており、必要に応じて入院できる体制が整っている。入退院時についても、利用者や家族の意向に沿いながら速やかな対応をしてもらえる関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合や終末期の支援については、利用者や家族の意向を早期から把握し、主治医も交えて話し合いながら支援していくことができる体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて、協力医療機関の看護師による勉強会を開催したり、看護師が来訪した際にも気軽に相談することができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体およびグループホーム単独での防災訓練を実施している。また、近隣住民の方々に依頼して、協力体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーの侵害となるような態度や言葉かけをしないよう、常に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活支援の中で、利用者が職員に気兼ねなく話せる雰囲気づくりを行っている。また、利用者がどのようにしたいか自己決定できるように働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にできるだけ添えるように、無理強いせず自分のペースでの生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力のもと、馴染みの美容院を利用している方もおられる。また、外出や行事の際には、本人と一緒に好みの服を選んだりして、その人らしいおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように飾りつけを工夫したり、食べやすい軟菜に変更したり、好みのメニューを取り入れたりしている。また、その方ができる準備や片づけなどのお手伝いしてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや栄養状態に応じて、食事内容の工夫や栄養補助食品の利用、水分の摂り方などを考慮し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の習慣として口腔ケアの援助を行っている。介助が必要な方には職員がお手伝いし、義歯のある方は義歯洗浄剤を使用して清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを利用している場合でも、本人の状態をみながらトイレやポータブルトイレでの排泄ができないか検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認を行っている。水分摂取や食事内容の工夫をして便秘の予防に努めている。さらにその方の状態に応じた運動を取り入れ、薬剤に頼りすぎずに自然排便ができるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間帯の入浴対応はできていないが、入浴曜日の固定はせず、また、無理強いせず、希望した日に入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を防ぐため、家事や趣味活動などをして過ごしていただき日中の活動量を高めている。また、体調に合わせて短時間のお昼寝などの休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関からの薬剤情報の提供を受けて確認している。薬の変更等があれば、その都度薬剤師の指導を受け、安全に服薬できるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日が有意義なものとなるように、残存機能を活かして、毎月のカレンダー作りや、洗濯物の整理・ボタン付けなどの役割を持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階ユニット「藍」 実践状況	実践状況	実践状況
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望により、ご家族の協力を得ながら外泊・外出の支援を行っている。また、気分転換に、気候や体調に合わせて散歩等に出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望により、ご家族の了解を得て少額のお金を持ってもらっている。移動販売などで買い物もできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば、いつでもご家族等に電話をすることができる。手紙を書くのが困難な方であれば、職員が代筆支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、照明・エアコン・テレビなどの音量などに配慮し、観葉植物や季節感のある飾りつけを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂だけでなく、テレビ前のソファで仲良く話しをしたり、テレビを見たりできる。また、談話コーナーや自室で独りで過ごすこともできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人の空間であるため、自宅で使用していた調度品・写真や人形、趣味の植物などを置いて、ご本人が安心できる環境づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた福祉用具を用い、安全かつ自由に行動できるように、過剰な行動制限は行わないように努めている。		